

今シーズンの発生状況と今後の対策強化について

令和6年11月21日

鳥インフルエンザ防疫対策緊急全国会議

農 林 水 産 省

消費・安全局動物衛生課

1. 今シーズンの発生状況

2. 今後の対策強化のポイント

- ① 飼養衛生管理の「隙」を埋める対策**
- ② 再発対策（既発農場・地域への指導強化）**
- ③ 大規模農場対策**
- ④ 発生時の速やかな防疫措置**

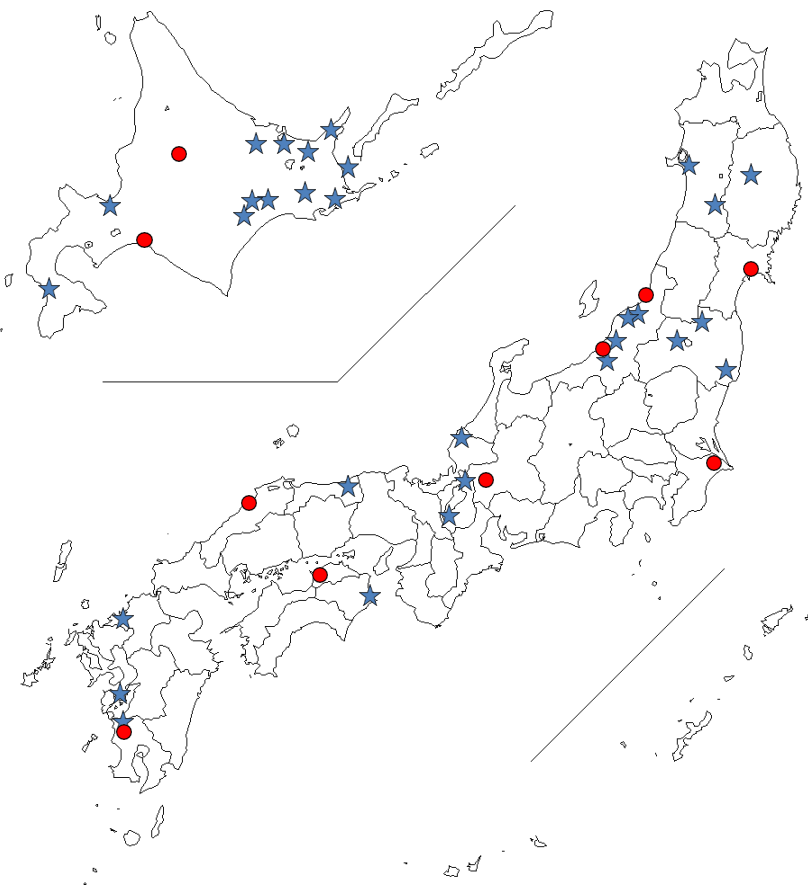
今シーズンの発生状況 (令和6年11月21日12時00分時点)

1 発生状況

- **今シーズン**は、家きんでは過去最多の発生となった**令和4年シーズン**に匹敵するペースで発生。
今後、渡り鳥飛来の本格化に伴い、**発生リスクは更に増大**。全国どこで起きてもおかしくない状況。
- **対策の基本**は、**飼養衛生管理の遵守徹底**。
(令和4→5年シーズンの大幅な発生減は、農場における飼養衛生管理の向上が寄与との指摘。)

令和6年シーズンの発生状況

● 家きん
★ 野鳥



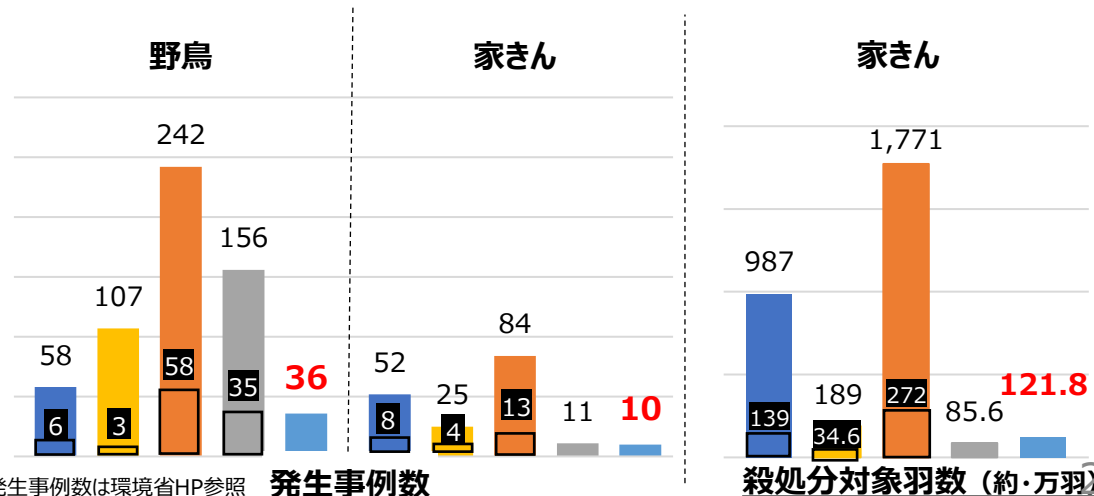
過去シーズンとの比較

(1) 初発、最終確認日

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
野鳥	初発	10月24日	11月8日	9月25日	10月4日	9月30日
	最終確認	3月3日	5月14日	4月19日	4月30日	
家きん	初発	11月5日	11月10日	10月28日	11月25日	10月17日
	最終確認	3月13日	5月14日	4月7日	4月29日	

(2) 発生事例数(野鳥、家きん)、殺処分対象羽数(白抜きは同日比)

■ : R2年度 ■ : R3年度 ■ : R4年度 ■ : R5年度 ■ : **R6年度**



(注) 野鳥における発生事例数は環境省HP参照

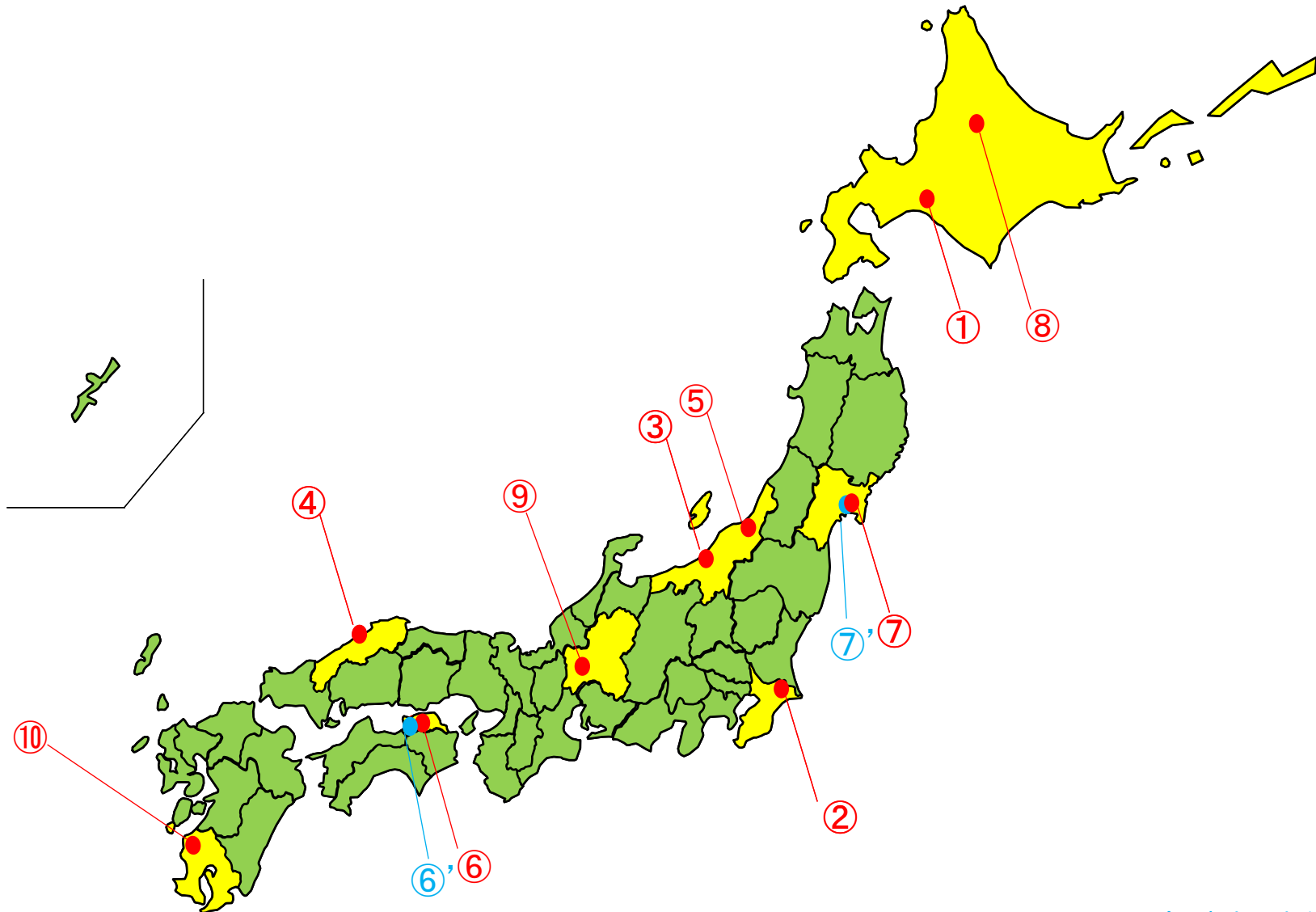
発生事例数

殺処分対象羽数(約・万羽)

今シーズンの発生事例・防疫措置の進捗状況 ①

1 発生状況

○ 今シーズンは、令和6年10月17日に国内1例目が確認されて以来、
令和6年11月21日12時00分時点で8道県10事例発生し、約121.8万羽が殺処分の対象となっている。



今シーズンの発生事例・防疫措置の進捗状況 ②

1 発生状況

○ 今シーズンは、令和6年10月17日に国内1例目が確認されて以来、
令和6年11月21日12時00分時点で8道県10事例発生し、約121.8万羽が殺処分の対象となっている。

事例数：10事例（防疫措置対象：農場 12施設 約121.8万羽）					農林水産省 対策本部	防疫対応状況			
発生場所			発生日 ※ 1	飼養羽数 ※ 2、3		防疫措置（殺処分・消毒等）		搬出制限区域 解除	移動制限区域 解除
						開始	完了		
①	北海道 1	養鶏場 （北海道厚真町）	令和 6 年 10月17日	約2.0万羽 （肉用鶏・平飼い）	10月17日	10月17日 10時00分	10月20日 18時00分	11月 1 日 0 時00分	11月11日 0 時00分
②	千葉 1	養鶏場 （千葉県香取市）	令和 6 年 10月23日	約3.7万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	10月23日 （持ち回り）	10月23日 8 時00分	10月24日 18時00分	11月 5 日 0 時00分	11月15日 0 時00分
③	新潟 1	養鶏場 （新潟県上越市）	令和 6 年 10月26日	188羽 （採卵鶏・平飼い）	10月26日 （持ち回り）	10月26日 10時00分	10月26日 15時00分	11月 7 日 0 時00分	11月17日 0 時00分
④	島根 1	養鶏場 （島根県大田市）	令和 6 年 10月31日	約40.2万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	10月31日 （持ち回り）	10月31日 4 時30分	11月10日 9 時15分	11月21日 0 時00分	-
⑤	新潟 2	養鶏場 （新潟県胎内市）	令和 6 年 11月 6 日	約33.7万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	11月 6 日 （持ち回り）	11月 6 日 8 時00分	11月12日 17時00分	-	-
⑥	香川 1	養鶏場 （香川県三豊市）	令和 6 年 11月 7 日	約4.3万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	11月 7 日 （持ち回り）	11月 7 日 22時00分	11月12日 15時00分	-	-
⑥′	香川 1	養鶏場 （香川県観音寺市）		約2.8万羽 （採卵鶏）				-	-
⑦	宮城 1	養鶏場 （宮城県石巻市）	令和 6 年 11月10日	約12.3万羽 （肉用鶏・平飼い）	11月10日 （持ち回り）	11月10日 11時00分	11月16日 17時00分	-	-
⑦′	宮城 1	養鶏場 （宮城県石巻市）		約4.8万羽 （肉用鶏）				-	-
⑧	北海道 2	養鶏場 （北海道旭川市）	令和 6 年 11月12日	約4.4万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	11月12日 （持ち回り）	11月12日 1 時00分	11月16日 13時00分	-	-
⑨	岐阜 1	養鶏場 （岐阜県本巣市）	令和 6 年 11月19日	約1.5万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	11月19日 （持ち回り）	11月19日 8 時30分	-	-	-
⑩	鹿児島 1	養鶏場 （鹿児島県出水市）	令和 6 年 11月20日	約12.0万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	11月20日 （持ち回り）	11月20日 7 時00分	-	-	-

※1 疑似患者と確認した日 ※2 飼養方法は主として疫学調査結果から引用。ただし、疫学関連農場については疫学調査を実施していないため飼養方法は記載せず。※3 飼養羽数は殺処分が完了するまでは、疑似患者確認時の羽数を記載。

1. 今シーズンの発生状況

2. 今後の対策強化のポイント

- ① 飼養衛生管理の「隙」を埋める対策**
- ② 再発対策（既発農場・地域への指導強化）**
- ③ 大規模農場対策**
- ④ 発生時の速やかな防疫措置**

従来の取組に加え、今シーズンの知見を生かした新たな対策も重要

<従来の取組>

- ✓ 特定症状に限らず、異状が確認された場合の早期通報の徹底
- ✓ 野鳥や野生動物の侵入防止
 - ネット等の設置、点検及び修繕、ねずみや害虫の駆除等
- ✓ カラス・野鳥の誘引防止
 - テグス張り、農場周辺の住処の除去、ため池の水抜き、刈込み等

<今シーズンの事例を踏まえた**新たな対策**>

- ✓ 農場外の関係者を含めた飼養衛生管理の徹底
 - **例外なき靴・衣服の交換や消毒の徹底**
 - **不要不急の工事の延期**
- ✓ 鶏舎への塵埃（じんあい）侵入防止
 - **鶏舎周辺の散水・消毒**、フィルターや噴霧器の設置等

ウイルスが侵入し得る「隙」

2①
「隙」を埋める

- 飼養衛生管理の基本は、農場に病原体を持ち込まないこと。農場の「隙」を埋める不断の取組が重要。
- 野鳥・野生動物の侵入・誘引防止など従来の対策に加え、今シーズンの発生事例を踏まえた対策強化も必要。

金網や防鳥ネット等の
破損



集卵ベルトや鶏糞排出口の
隙間



堆肥舎での卵や廃鶏の
放置による野鳥の誘引



鶏舎周辺の野鳥の
住处等の除去



外部作業者の
消毒の不徹底



今シーズンの事例を踏まえた新たな「隙」を埋める対策

2①
「隙」を埋める

- 今シーズンでは、農場への外部入場者が靴の履き替え等の飼養衛生管理が不十分であった事例や、乾燥し塵埃が舞いやすい環境下において換気をした後に入気口周辺に死亡鶏が分布していた事例が見られた。
- 農場外の関係者を含めた飼養衛生管理の徹底（不要不急の工事の延期等）や、鶏舎への塵埃侵入防止対策（乾燥した環境下における散水・消毒等）も、農場の「隙」を埋める対策として重要と考えられる。

塵埃侵入防止

- 事例：
乾燥し塵埃が舞いやすい環境下において換気をした後に入気口周辺に死亡鶏が分布していた事例が見られた。
- 対策：
農場に塵埃が大量に侵入する状況避けるため、
 - ✓ ウインドウレス鶏舎であれば、フィルターの設置
 - ✓ 開放鶏舎であれば、乾燥環境下における散水・消毒が有効ではないか。

フィルター・細霧装置の設置

- 消費・安全対策交付金（家畜衛生の推進（ハード））で支援可能

2. 飼養衛生管理の向上

特に高病原性鳥インフルエンザ対策に資する鶏舎入気口フィルター及び細霧装置の整備を支援します。

【お問い合わせ先】

消費・安全局動物衛生課（03-3502-8292）

農場外の関係者を含めた飼養衛生管理の徹底

- 農場出入りの際の消毒等の徹底、不要不急の工事の延期



1. 今シーズンの発生状況

2. 今後の対策強化のポイント

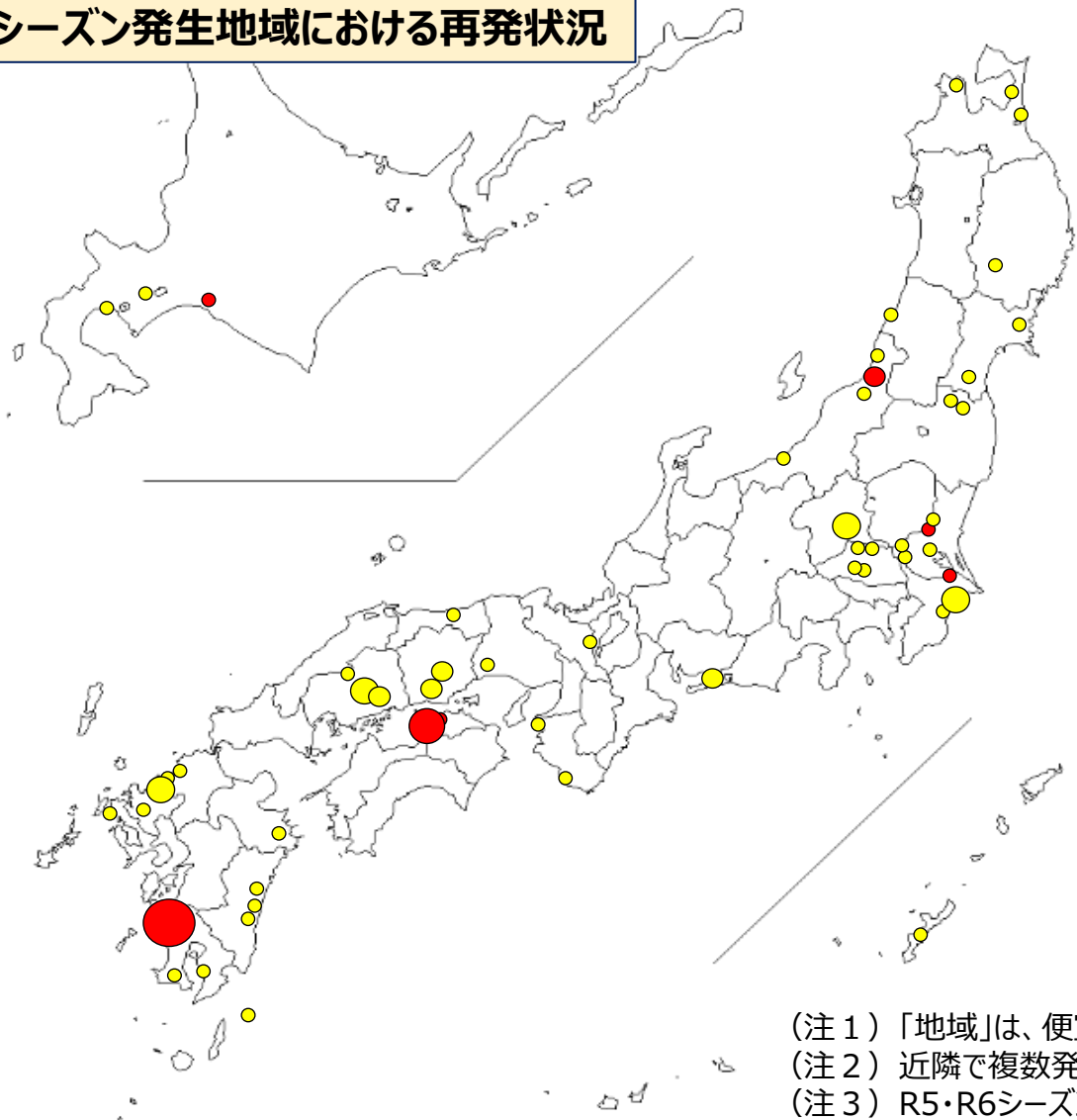
- ① 飼養衛生管理の「隙」を埋める対策**
- ② 再発対策（既発農場・地域への指導強化）**
- ③ 大規模農場対策**
- ④ 発生時の速やかな防疫措置**

再発対策（既発農場・地域への指導強化）

2②
再発対策

- 今シーズン発生10事例のうち6事例が、過去に発生した農場又は地域における再発。
- 「一度発生した地域では再発のリスクが高い」という認識を徹底し、特に農場密集地域での注意喚起が再度必要。

R4シーズン発生地域における再発状況



- R4シーズンの発生地域のうち、R5シーズン及びR6シーズンで再発が見られた地域を赤で着色。
- その結果、鹿児島県や香川県など、複数の地域において再発が見られる。

（注1）「地域」は、便宜上市町村単位とした。

（注2）近隣で複数発生した事例について事例数に応じてプロットの大きさを変更。

（注3）R5・R6シーズンで同一地域で発生があったエリアを赤で着色。

1. 今シーズンの発生状況

2. 今後の対策強化のポイント

- ① 飼養衛生管理の「隙」を埋める対策**
- ② 再発対策（既発農場・地域への指導強化）**
- ③ 大規模農場対策**
- ④ 発生時の速やかな防疫措置**

- ✓ **飼養羽数20万羽以上の農場における衛生管理を再点検**
- ✓ **殺処分羽数の低減に向けた農場の分割管理の推進**
 - 大規模農場における分割管理の導入可能性を再確認
 - 分割管理に必要なとなる施設整備の支援
 - 発生時に疫学関連農場とならないような管理の働き掛け

20万羽以上の農場における衛生管理の再点検

2③
大規模農場

- 動物衛生課において、**飼養羽数20万羽以上の農場**における**衛生対策の実施状況**について調査したところ、**点検項目によって実施率にばらつき**が見られる結果となった。
- **20万羽以上の農場**は、仮に発生した場合に**鶏卵需給や防疫対応上の影響が生じ得ること**から、今一度、**飼養衛生管理の遵守徹底状況や、本日御説明した対策強化ポイントの実施状況等**について、**再点検**をお願いしたい。

衛生対策の実施状況（結果）

➤ 調査対象

→ **飼養羽数20万羽以上の農場（全286農場）**を調査。

➤ 結果

【実施率が比較的高い点検項目】

- ✓ モニター等の**点検補修**
- ✓ **鶏舎開口部対策**（集卵・除糞ベルト等）
- ✓ **野鳥誘引防止対策**（農場内の樹木伐採等）

【実施率が比較的低い点検項目】

- ✓ **入気口フィルター**の設置
- ✓ **細霧装置**の設置
- ✓ **ため池対策**（テグス・水抜き等）
- ✓ **鶏舎屋根へのテグス設置**

飼養衛生管理の遵守徹底状況や
鶏舎の構造・周辺環境を踏まえた
農場ごとに必要な対策の実施ができているか
再点検をお願いしたい。

✓ 入気口フィルター



✓ 細霧装置



✓ ため池の水抜き



✓ ため池のテグス（一部強調）



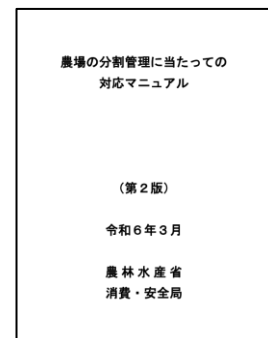
- 患畜又は疑似患畜が確認された農場の家畜は殺処分となるが、飼養衛生管理基準や特定家畜伝染病防疫指針に従い、**人・物・家畜等の動線を分けることで農場を分割し、殺処分の範囲を限定**することが可能（**分割管理**）。
- 分割管理の導入に向けた検討は都道府県により偏りがある状況だが、次ページで述べるような**先行事例も参照しつつ、今一度、大規模農場における分割管理の導入可能性について確認**いただきたい。

分割管理の取組の際の課題と解決の「タネ」

取組の際の課題	解決に向けた「タネ」
施設整備が必要な取組という認識	作業動線の見直しなど、 ソフト対策のみで検討している事例あり。
大規模農場向けの取組という認識	中小規模であっても検討している事例あり。
施設整備のための 資金が不足	衛生管理区域を別に設定し一時的に既存施設を使用する、仮設柵を設置するなど、 段階的な分割管理の導入が可能。
従業員を分けられない	シャワーインによる対応が可能。
農場内の 施設の配置上対応困難	経営規模拡大に取り組む際に合わせて検討が可能。

分割管理の導入支援

- 「農場の分割管理に当たっての**対応マニュアル**」において、分割管理の取組についての**基本的な考え方**や**取り組む際のポイント**について記載



農林水産省ホームページ
ホーム

→消費・安全

→家畜の病気を防ぐために

→農場の分割管理について

https://www.maff.go.jp/j/syouan/doiuei/katiku_yobo/bunkatukanri.html

- **消費・安全対策交付金**（家畜衛生の推進（ハード））で支援可能

3. 農場の分割管理の導入

高病原性鳥インフルエンザ等の発生に備え、**農場の分割管理**に取り組む場合に追加で必要となる**更衣室、車両消毒施設、農場境界柵、堆肥舎等の設備・機器等**の整備を支援します。

【お問い合わせ先】

消費・安全局動物衛生課（03-3502-8292）

分割管理に取り組んでいる事例

2③
大規模農場

○ 各農場の現状・課題に応じて、要すれば予算事業を活用しつつ、分割管理に取り組む事例あり。

事例 1（令和 5 年 11 月～分割管理開始）

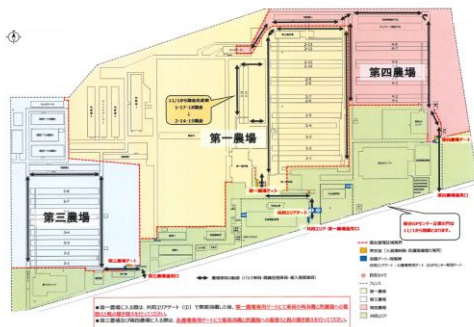
【分割前】



課題・現状

- 次シーズンまでに分割管理を開始したい意向
- 消毒ゲート、更衣室、堆肥舎が一部共通
- 従業員が共通
- GPセンターは 3 箇所

【分割後】



対応

- ✓ 既存施設を元に、3 農場に分割。農場間に境界柵を設置（消費・安全対策交付金を活用）し、区域毎に消毒ゲートを整備
- ✓ 早期に分割管理を開始するため、仮設柵・仮設更衣室を設置し、既存の堆肥舎を活用して分割管理を開始（堆肥舎整備後、衛生管理区域を再設定予定）
- ✓ 従業員を専属化し、分割後の運用の変更点、疾病発生時の農場毎の対応等について定期的に研修会を実施

事例 2（令和 6 年 4 月～分割管理開始）

【分割前】

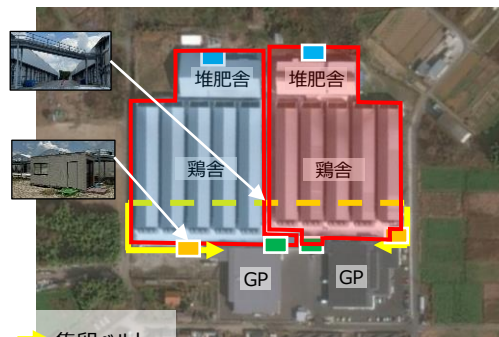


課題・現状

- 区画の境界が不明確
- 中央部分で集卵ベルトが共用
- 消毒ゲート、更衣室、死体保管庫は共用
- 堆肥舎、GPセンターは区画毎
- 従業員は鶏舎毎に配置

集卵ベルト
消毒ゲート
更衣室
死体保管庫

【分割後】



集卵ベルト
消毒ゲート
更衣室
死体保管庫

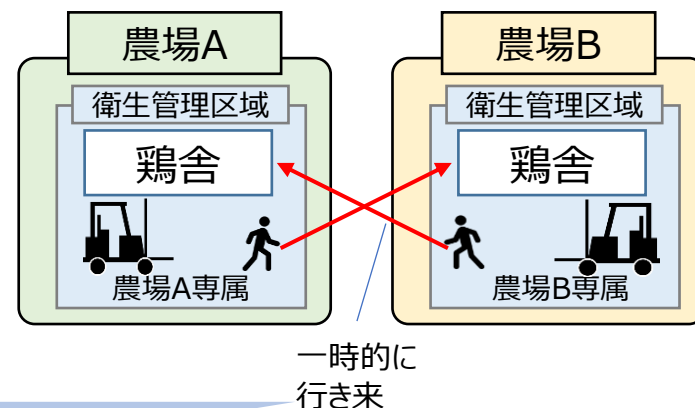
対応

- ✓ 一時的な対応として三角コーンを設置、境界を明確化（境界柵を整備予定）
- ✓ 集卵ベルトの共用停止
- ✓ 車両用の入場ルート of 仮設定（消毒ゲートを整備予定）
- ✓ 更衣室を整備
- ✓ 死体保管庫を独立した衛生管理区域に設定（区画毎の保管庫を整備予定）
- ✓ 従業員教育の実施

- 都道府県からは、分割管理の考え方を基に、殺処分羽数の低減につながる簡易な取組の相談もいただいている。
- 分割管理まで至らずとも、発生時に疫学関連農場とならない（別農場と捉えられる）ための管理に向けて、改めて衛生管理の状況等を確認いただくとともに、不明点があれば御相談いただきたい。

相談事例

- 同じ事業者により経営されている農場A及び農場Bは数km離れており、職員、車両及び施設は基本的に各農場で専属としている。
- 鶏の行き来はないが、入雛時等の応援の際、それぞれの農場の職員が鶏舎内に入るため、現状は同一農場と扱っている。
- 各農場の入場時にシャワーインすることで、別農場と扱うことは可能か。

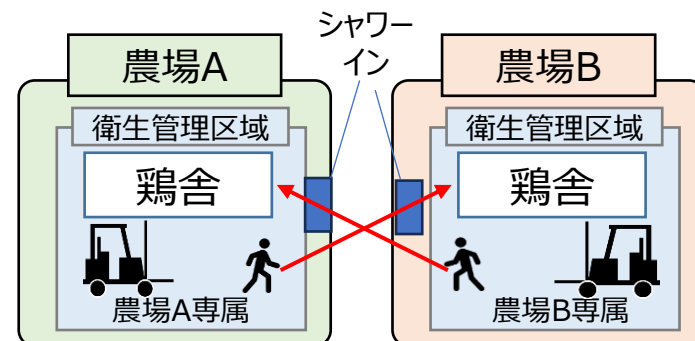


回答

- ✓ 飼養衛生管理基準が厳格に遵守されており、入場記録や野生動物対策、車両消毒等が行われ、シャワーイン、車両及び機材が専属化しており、動線が重複しないのであれば、別農場と捉えることは可能。

主な確認点

- 飼養衛生管理基準の遵守
- シャワーインの実施
- 車両・機材の分離
- 作業動線の分離
- 等



1. 今シーズンの発生状況

2. 今後の対策強化のポイント

- ① 飼養衛生管理の「隙」を埋める対策**
- ② 再発対策（既発農場・地域への指導強化）**
- ③ 大規模農場対策**
- ④ 発生時の速やかな防疫措置**

- ✓ 発生時は、迅速な防疫措置（殺処分・埋却等）による病原体の拡散防止が最重要。
- ✓ 迅速な防疫措置のためには、事前の演習に加え、十分な資機材・作業員の確保が必要。
- ✓ 年末年始の長期休暇も見据え、緊急の調達が困難になる可能性も考慮し、事前の備えを徹底いただきたい。

迅速な防疫措置のための初動対応

2④
防疫措置

- 迅速な防疫措置（殺処分・埋却等）を実施するためには、**初動対応**が最重要。
- 初動の約12時間に行うべき、①**検査の迅速かつ確実な実施**②**防疫措置開始に向けた諸準備**③**農林水産省をはじめ関係機関との適時適切な情報共有**、の3点について、改めて体制を**再点検**いただきたい。

【防疫措置関連】

防疫措置準備

- ・防疫計画の策定、庁内体制の構築
- ・農場の下見（先遣隊派遣）
- ・焼埋却手法決定→事業者と調整



① 資機材関係

- ・防疫資機材の在庫確認→不足時は追加調達
- ・防疫作業基地の選定・設営
- ・防疫資機材の基地への搬入

② 動員関係

- ・必要動員規模の把握→不足時は応援要請
- ・動員組織と調整、関係団体・民間業者と契約
- ・作業員の輸送手段確保

③ その他

- ・消毒ポイント設置準備
- ・通行遮断に係る警察との調整
- ・疫学調査隊準備

防疫措置開始

疑い事例確認
(異状鶏通報)

簡易検査
陽性

家畜防疫員の立入
・稟告、疫学聴取
・臨床検査
・簡易検査

通報

報告

病鑑家保持ち込み

遺伝子
検査

検査結果

共有

確定

農
林
水
産
省

共有

判定

動
衛
研

【約10時間】

【約2時間】

疑似患畜確定

- 迅速な防疫措置（殺処分・埋却等）の実施の際は、**十分な資機材・作業員の確保**が不可欠。
- **年末年始の長期休暇も見据え**、緊急の調達が困難になる可能性も考慮し、**事前の備えを徹底**いただきたい。

資機材の確保

- ✓ 疑い事例確認後**速やかに**、**各都道府県の在庫で対応可能か確認**。
 - ✓ **不足が想定される場合**には、
 - 速やかな**地元事業者等からの調達**
 - **国備蓄資機材の貸与**により、**必要資機材の確保を図りたい**。
- ※動物衛生課から、全国的な流通業者への協力要請も可能。

【参考：消費量の多い資機材】

- ・CO2ボンベ（成鶏約700羽／本（30kgボンベ））
- ・フレコンバック（成鶏約200羽／袋）
- ・ブルーシート
- ・タイベック、ゴーグル等
- ・消毒薬

【今シーズンの発生事例から】

- ✓ **CO2ボンベの調達に苦慮**するケースが散見。
 - 国から貸与できない資機材であることから、**日頃から地元業者と連携**を図っていただきたい。

作業員の確保

- ✓ 各都道府県においては、緊急時に備え、**全庁的な動員体制や市町村・関係団体との連携体制が構築**されていると認識。
 - ✓ 加えて、一部の県では**民間事業者**に動員を依頼することで効率的に防疫作業を進めており、こういった取組も必要に応じ検討いただきたい。
 - ✓ なお、**関係団体や民間事業者の動員**に際して、**業務委託を行う場合は、家畜伝染病予防費の交付対象**となる。
- ※動物衛生課から、他県の家畜防疫員等や家畜改良センターからの重機オペレーターの派遣調整も可能。

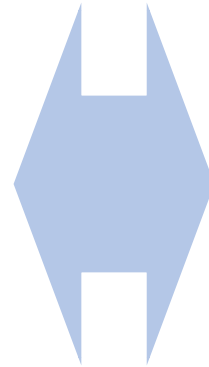
【今シーズンの発生事例から】

- ✓ **作業員輸送用のバスの確保に苦慮**するケースが散見。
（一因として、「自動車運転者の労働時間等の改善のための基準」を背景に、事業者側の対応が困難になっている点が指摘）
 - **家畜防疫に係る運搬業務は当該基準の適用外**とされていることなどをよく説明しながら、事業者と調整を図りたい。
 - それでも不足する場合は、**ジャンボタクシーの借上げ、農業大学校など県関連施設のマイクロバス等の活用**といった手段も検討いただきたい。

○ 今シーズンに実際行われた防疫措置の概要を御紹介する。民間事業者の活用方法を含め、参考とされたい。

事例の概要

- 実施県：**新潟県**（今シーズン国内5例目）
- 発生規模：**33.7万羽**（採卵鶏、ケージ飼い）
- 最終処分方法
 - 殺処分鶏：**埋却**
 - 汚染物品：焼却（卵）、埋却（飼料等）
 - 鶏糞：封じ込め
- 動員規模及び防疫措置に要した期間
 - 動員規模
 - ・一般動員等：**25名×3班体制（4時間交代）**
 - ・自衛隊：**60名（8時間交代）**
 - 疑似患畜確定～殺処分終了：**97時間（約4日）**
 - 疑似患畜確定～防疫措置終了：**153時間（約6日）**
- 一般動員等による殺処分速度：**平均2,082羽/時間**



【民間事業者の活用】

- **県と民間事業者の間で、以下の内容の協定書を事前に締結**
 - 作業内容：殺処分・清掃・消毒、サポート基地運営補助等
- **発生疑い時点で、期間・人数を指定し緊急随意契約。**
 - ※確定検査陰性の場合はキャンセル料発生（家伝費対象）
- 本事例では、民間事業者から**6日間・延べ1,060人派遣**（農場内作業は30～40人／クール）